

沖縄振興審議会 総合部会専門委員会 中間報告（概要）

見直しの経緯、審議の状況及び今後の予定について

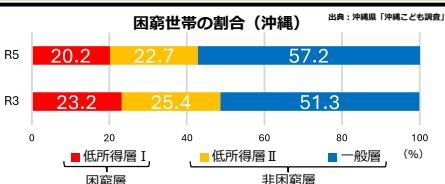
- 令和4年の改正沖縄振興特別措置法の附則第2条に設けられた5年以内の見直し規定を踏まえ、法施行から5年目にあたる令和8年度中に沖縄振興審議会として一定の結論を得るべく、審議会の下に総合部会専門委員会が設置され、新沖振法の施行状況についての調査審議が付託された。
- 総合部会専門委員会においては、令和7年1月以降、近年の環境の急速な変化の状況等に着目しながら、以下の5つのテーマについて調査審議を実施。
- 本中間報告は、今回、調査審議テーマとして設定された5つのテーマについて、一通り調査審議を終えたことから、これまでの総合部会専門委員会における議論を中間に整理し、沖縄振興審議会に報告するもの。
- 今後、引き続き総合部会専門委員会を複数回開催し、令和8年度中に最終報告を取りまとめの上、沖縄振興審議会に報告予定。

テーマ（1）子どもの貧困・福祉・医療

環境の変化、取組の進捗状況等

- 子育て世帯に占める困窮世帯の割合の低下等、子どもの貧困対策は一定の成果。一方、困窮世帯の割合は依然として高い。

- 県総人口は令和4年以降減少に転換。今後、全国より高い伸び率で高齢者人口が増加見込み。



今後の課題・重視すべき視点

- 子どもの貧困問題の解決に向けては、県民全体の所得向上が必要。困窮世帯等の所得向上につながる取組等の強化が重要。
- 教育・福祉・医療を融合させた「子どものウェルビーイング」の視点が重要。保護者からこどもへの心理的なエネルギー補給も必要。
- 産前・産後・子育ての拠点である「こども家庭センター」の整備や待機児童の解消等が課題。
- 今後、医療介護専門職の人材確保が困難となる中で、民間事業者との連携等によりサービスを維持・拡充していくことが重要。

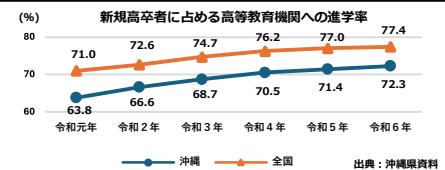
テーマ（2）教育・人材育成・文化・国際交流

環境の変化、取組の進捗状況等

- 新規高卒者に占める高等教育機関への進学率は、上昇傾向にあるものの、全国平均とは未だに開き。

- 少子高齢化や産業の高度化・複雑化等を背景に、各産業の担い手や後継者の育成、確保が急務。

- 担い手の減少やライフスタイルの多様化等により、伝統文化の継承に危機。



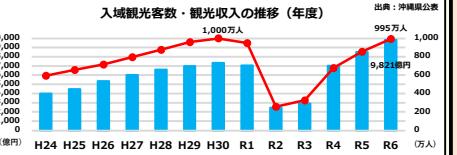
今後の課題・重視すべき視点

- 多様化・複雑化する社会ニーズへの対応力と新たな価値を生み出す創造性を兼ね備えた人づくりが課題。
- 必要とされる人材像に応じ、分野ごとに戦略的に人材を育成・確保することが重要。
- 沖縄文化の継承・発展に向けて、次世代を担うこども達への鑑賞機会の創出や担い手の育成・確保等が課題。
- 世界に広がるウチナーネットワークを基軸とする人的ネットワークの更なる発展に向けた国際交流の強化・拡充が課題。

テーマ（3）観光リゾート・交通

環境の変化、取組の進捗状況等

- コロナ禍後、観光需要が過去最高水準まで急速に回復。その中で、人手不足や高付加価値コンテンツの供給不足等、受入れ体制の脆弱性が顕在化。
- 交通手段分担率は自家用車の割合が更に増加。県中南部の渋滞は深刻な状態。
- 高齢化等に伴い、移動制約者の増加等のおそれも。



今後の課題・重視すべき視点

- 持続可能な形で観光収入を伸ばしていくには、観光客一人当たり消費額の増加が重要。
- 観光人材について、イメージの改善や待遇の底上げ、高度観光人材の育成等が課題。
- バス等の公共交通への利用転換に向けて、バス専用レーンの延長や連節バスの導入、公共交通料金の低減等の取組が重要。
- 自動運転も含め、実証的取組の推進も重要。

テーマ（4）北部・離島

環境の変化、取組の進捗状況等

- 一部地域では、高齢化や人口減少により、行政サービスや産業の担い手不足が深刻化。
- 住宅不足の深刻化が、移住の障害に。
- 北部地域では、一人当たりの県民所得が県平均よりも低い状態が続く一方、テーマパークの開業等により新たな観光需要が発生。

今後の課題・重視すべき視点

- 地域社会の維持が危機的な状況にある地域を中心に、域外からの担い手の持続的な受入れ体制の早急な構築が課題。
- 空き家対策の強化等を通じ、住宅不足の迅速な解消が課題。
- 北部地域においては、DMO等を中心とした戦略的な観光周遊促進等を通じ、「稼ぐ力」の持続的な創出が重要。
- 引き続き、条件不利性に基づく生活コストや交通コストの負担の軽減が重要。

テーマ（5）環境保全・再生・景観・エネルギー

環境の変化、取組の進捗状況等

- 沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録を踏まえた、県域全体での自然環境の適正な保全管理の要請の高まり。
- 再エネ電源比率は順調に推移。



今後の課題・重視すべき視点

- 世界自然遺産登録地等における適正な観光管理の推進及び外来種駆除の推進が重要。
- 沖縄の魅力を生かした観光資源や生活の質の向上等の観点で、都市部の街並みや夜の景観づくり等も重要。
- 沖縄の地域特性に合った再生可能エネルギーの導入拡大に向けた取組の加速化が課題。
- 実証事業で培ったエネルギー・マネジメント技術等を将来的に海外に輸出し、事業化につなげていくという視点も重要。